

1. 単元 ゲーム領域「タッチフットボール」
2. 研究主題との関連

**学びを創り続ける授業における教師の役割**  
～子どもが学びに没頭する姿を引き出す授業づくり～

### (1) 単元について

4年生の子どもたちは、2学期にゲーム領域「ランニングハンドボール」を経験しており、その中でハンドボールの基本的なボール操作やボールを持たない時の動き、またゲームを楽しむために規則を工夫したり、作戦を自分たちで考えたりして取り組んだ。しかし、休み時間にドッジボールやバスケットボールを好んで取り組む多くの子どもと、読書や友だちと話すこと、一輪車などボールを使わない遊びを好む子どもでは、基本的なボール操作の技能に大きな差があるのも事実である。

本単元「タッチフットボール」は、攻守の区別がはっきりしたチームで取り組む陣取り型のボールゲームである。3回ずつ攻撃と守備を繰り返し、1回の攻撃ごとに作戦タイムを取る。作戦を成功させるために仲間と課題を設定し、試行錯誤しながら解決に向かっていく。また、事前調査から全員が初めて体験する運動であるため、サッカーやバスケットボールとは違いそれまでの経験の差や心理的な差が少なく意欲的に取り組むことができる運動である。

学習を進めるにあたっては、適度な困難度のある授業をめざして、「なじみの運動」を設定し、基礎的なボール操作をゲーム化したり、競争したりすることで楽しみながら行えるようにする。こうすることで、意欲的に技能を習得できるようにしたい。そして、没頭する姿を見取る教師の役割として、作戦を考え実行する課題解決の場で、仲間と試行錯誤しながら運動に没頭している瞬間を見取り、チームや全体に運動で返すことで、それぞれの過程の連続発展につなげていきたい。

### (2) 単元の目標

【学ぶ態度】運動に進んで取り組み、マナーやルール、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりすることができる。

【思考・判断】作戦に対する、具体的な課題を考え、解決しようと仲間と協力することができる。

【技能】基本的なボール操作や、ボールを持たない時に、ボール保持者と自分の間に守備者がいないようにポジションをとることができる。

### (3) 授業構成の視点

#### 「没頭」する姿を見取る ～ワークシートの見取りを活かした手立て～

「没頭」する姿は、子どもが課題解決の過程において「ワークシートに書いた気づきや思い」「授業の中で練習している取り組み」「上達している内容」が合致した時、あらわれると考える。教師は、これを見取るために、子ども一人ひとりのワークシートに書かれた課題や解決方法を把握し、授業に挑むようにする。それにより、つまずきに合った課題設定ができていくか、解決方法はふさわしいかを判断することができるように考える。そして、課題を解決できた子どもの気づきや思考の流れを、大いに賞賛し次の課題に進めるようにする。学びが停滞している子どもには、課題設定に立ち戻るように教師がチームに関わっていく。このような役割を果たすことで、より多くの「没頭」する姿を生み出し見取ることができるように考える。また、「没頭」する姿を見取り、共有の場を通してチームや全体に運動で返すことで、課題解決の糸口を見つけたり、新たな課題に気づいたりすることができるようにしたい。これにより、教科論図9-1「学びを創り続ける中で仲間と学び合う姿」を連続発展させることができ、子どもが自ら学びを創り続けていくことができると考える。

#### 自己決定感のある授業 ～主体的・意欲的に取り組める場の設定～

子どもの思いや願いに沿った作戦や、それを成功させるための課題や解決の方法を、自ら決定することで主体的・意欲的に取り組むことができると考える。

本単元では、ゲームの場で実践する。本単元におけるゲームでは、攻守の区別がはっきりしていて、3回ずつある攻防の1回の攻撃のたびに作戦タイムをとる。そこで、課題や解決の方法を自ら決定し解決に取り組む。3回繰り返すことから、ふり返りをすぐに実践につなげ、新たな気づきにつなげていくことができるようにすることで、自ら学びを創り続けることができると考える。攻防ごとに、自分たちの動きをイメージしたり、ふり返ったりする場を設定することで、より次の動きに活かしていくことができるようにする。

### 3. 指導計画（全10時間 本時は6 / 10時間目）

学習課題・学習活動	子どもの意識の流れ	評価と役割（ 評価規準 役割）		
<p><b>1. タッチフットボールを知ろう。</b> 1時間</p> <p>タッチフットボールの学習の進め方やルールを理解する。</p> <p>試しのタッチフットボールをする。</p>	<p>いったい、どんなスポーツなんだろう。ボールはおもしろい形だな。できるかな。</p> <p>まっすぐ前に投げるのが難しいな。横や後ろに投げるのは結構できるな。</p> <p><b>まずは、ボールになれないと</b></p>	<p>学ぶ態度</p> <p>運動に進んで取り組み、ルールやマナーを守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりしようとしている。</p>	<p>思考・判断</p> <p>自分の課題を理解し、動きを工夫したり、友だちの動きを見たりして、有効な動きを取り入れることで課題を解決しようとしている。</p>	<p>技能</p> <p>基本的なボール操作ができ、スペースを活かした動きができています。</p>
<p><b>2. 基本的なボール操作を身につけながら、みんなが楽しめる規則を考えよう。</b> 3時間</p> <p>チーム練習をする。</p> <p>ゲームをする。</p> <p>ふり返りをする。</p>	<p>ぜんぜんパスが通らないしもらえないな。どこに動けばいいかわからない。</p> <p>すぐにパスを通されてしまうな。うまく相手にタッチできない。どう動いたらいいん</p> <p><b>攻撃4人守備3人にしたらどうだろう。</b></p> <p><b>スペースを見つければいいぞ！</b></p>	<p>なじみの運動の場を設定し、適度な困難度を感じさせることで意欲の向上を図る。</p>	<p>それぞれに合った課題設定ができていないか、課題解決の方法が合っているかを見取り、確認できるように声をかける。</p>	<p>主運動につながる「なじみの運動」に取り組みさせることで、基本的なボール操作を身につけることができるようにする。</p>
<p><b>3. いろんな作戦を考え、試合で試してみよう。</b> 3時間</p> <p>(本時6 / 10時間)</p> <p>ゲームをする</p> <p>よい動きや動きの工夫を共有する。</p> <p>ゲームをする。</p> <p>ふり返りをする。</p>	<p>味方から離れたほうがパスがもらいやすいぞ。人がいないところはパスが通るな</p> <p>だれもいないところにパスを通されているから、そこを見つけて注意しなきゃ。</p> <p><b>上手に攻撃（守備）ができる作戦はないかな。</b></p> <p>スペースをつくる作戦を考えよう。フェイントをかけるといいな。</p> <p>スペースをなくす作戦を考えよう。一人に一人がマークするのもいいな。</p>	<p>多くの子どもの課題を共有することで、みんなが楽しめるゲームにする。</p> <p>全体やグループでよい動きを共有することで、意欲的に取り組むことができるようにする。</p>	<p>ICT機器を活用し、それぞれの動きを客観的に見て、振り返ることができる。</p> <p>毎時間のふり返りができるように学習シートを用意する。</p>	<p>ICT機器を用意し、それぞれの動きを客観的に見て、課題解決につなげることができるようにする。</p> <p>スペースを使うことに気づかせるため、スペースを使っている練習試合の局面を取り出し、共有するようにする。</p>
<p><b>4. チームに合った作戦を使ってリーグ戦を楽しもう。</b> 3時間</p> <p>チーム練習をする。</p> <p>リーグ戦をする。</p> <p>ふり返りをする。</p>	<p>チームには足の速い子がいるから、それを使った作戦はどうか。やってみよう。</p> <p>得点力のあるAくんにひとりがびったりマークしよう。</p> <p><b>ゲームが作戦通りにいくのは、すごく楽しいな。</b></p> <p><b>次は、違う作戦に挑戦してみよう！</b></p>	<p>課題解決できた子どもは大いに賞賛し、よい動きは共有することができるようにする。</p>	<p>他のチームのいいところと自分たちの動きをくらべさせ、新たな課題に気づくようにする。</p>	<p>スペースを有効に使っているチームを、見つけ全体で共有することで、スペースの使い方に気づくようにする。</p>